

教育と臨床における共同体感覚の意義

| | |
|-------|--------------------|
| 企画・司会 | 向後千春 (早稲田大学) |
| 話題提供者 | 橋口誠志郎 (スクールカウンセラー) |
| 話題提供者 | 高坂康雅 (和光大学) |
| 話題提供者 | 服部弘子 (早稲田大学) |
| 話題提供者 | 鈴木義也# (東洋学園大学) |
| 話題提供者 | 赤坂真二 (上越教育大学) |

1. 企画の趣旨 (向後千春)

フロイト、ユングと並んで臨床心理学を基礎づけたアルフレッド・アドラーが体系づけた心理学理論はアドラー心理学 (あるいは個人心理学, Individual Psychology) と呼ばれている。アドラー心理学は親業訓練の分野や学級経営の分野でとりわけ有用な理論と技法を提供している。それにもかかわらずアドラー心理学が取り上げられることが少ないのは、その理論とともに独自の思想が構築されているためだと思われる。しかし、アドラー心理学の中心概念である共同体感覚 (Social interest) に言及することなくアドラー心理学を位置づけることは不可能である。

本シンポジウムでは、共同体感覚の概念を切り口として、教育・臨床領域においてアドラー心理学の理論と実践をどのように利用していくかについて、次の観点から報告を受けて、議論していきたい。

(1) 共同体感覚を測る心理尺度を開発することにより、その概念を明確化し、また他の関連する尺度との関係性を見ることにより、共同体感覚の位置づけをする。

(2) さまざまな流派と技法が混在する心理臨床の領域において、共同体感覚という大きな概念をどのように利用していくことができるかについて明らかにする。

(3) 学校という組織と制度、また学級運営や教師と学習者の関係性においては問題が山積している。その領域で問題を解決するために共同体感覚という考え方をどのように使うことができるかについて提案する。

2. 小学生用共同体感覚尺度 (橋口誠志郎)

本研究では先行尺度において項目内容に認知、行動、感情のレベルに混在があるという問題点を克服するため中核信念に焦点をあてて尺度を作成した。中核信念とは自己や他者に対する、絶対的で、強固で、広範に及ぶ認知のこと(Beck, 1995)である。そのさい野田(1999)における共同体感覚の定義「私は

能力がある」「人々は仲間だ」という信念を踏まえ、共同体感覚を「私は人々にプラスを与える能力がある」「人々は私にプラスを与えてくれる」という信念と定義した。さらに「私は人々にプラスを与える能力がある」という信念を共同体感覚的自己スキーマ、「人々は私にプラスを与えてくれる」という信念を共同体感覚的他者スキーマとした。因子分析の結果、共同体感覚的自己スキーマ5項目、共同体感覚的他者スキーマ5項目の計10項目構成となった。信頼性は各々 $\alpha=.77$, $\alpha=.87$ であった。また、自己価値との相関は各々 $r=.43$, $r=.60$ であり、抑うつとの相関は各々 $r=-.37$, $r=-.67$ であり、基準関連妥当性が示された。本尺度において小学生段階における共同体感覚が測定可能となり、Adlerの理論の検証、思想の検証が可能となった。また技法による介入の効果を測定できることにもなり、本尺度の作成は意義があることであると考えられる。

3. 青年版共同体感覚尺度の作成 (高坂康雅)

共同体感覚は、Adlerの個人心理学における中心的理論概念であるが、多義的な概念でもあるため、測定・把握が困難である。しかし、共同体感覚を適切に測定することは、Adlerの理論について実証的に検証することが可能になり、またクラス会議などの教育実践について共同体感覚の観点から効果を検討することもできるようになる。欧米では、1970年代に、Social Interest Index(SII; Greever et al., 1973)など、共同体感覚を測定する尺度が作成されており、これらの邦訳版も作成されているが、これらは理論的な不適切さを有していたり、信頼性・妥当性の検討が不十分であった。高坂(2011)は、これまで作成されてきた共同体感覚を測定する尺度の問題点を指摘するとともに、野田(1998)などの論究をもとに、「所属感・信頼感」、「自己受容」、「貢献感」の3下位尺度からなる青年版共同体感覚尺度を作成している。作成された尺度は、内的一貫性や安定性の観点から十分な信頼性を有しており、また、学校適応感や精神的健康、劣等感などとの関連

から、十分な妥当性を有していることも確認されている。本話題提供では、青年版共同体感覚尺度の作成過程や適用例などについて紹介するとともに、改めて共同体感覚を測定することの意義や問題点について提起したい。それにより、共同体感覚をはじめとするAdlerの理論への理解が深まるとともに、Adlerの理論に基づく研究が活発化することを期待する。

4. 成人用共同体感覚尺度（服部弘子）

Adlerが提示した共同体感覚について、野田(1985)は、教師のみならず成人全般の共同体感覚の育成の重要性を述べている。また、Rodd(1994)は、共同体感覚と主観的幸福感との関係を示唆している。しかし、共同体感覚は高度に抽象的な概念であり操作的定義に苦戦している(Bass et al, 2002)。そこで、本研究では、成人の共同体感覚を測定できる信頼性と妥当性の高い日本語版の尺度を作成した。本尺度は、次元として野田(1987)が述べた共同体感覚の下位概念と、状況としてAdler(1926)が述べたライフタスク理論を組み合わせて設計した。因子分析の結果、「養育と家族のタスク」、「愛のタスク」、「交友のタスク」、「仕事のタスク」の4因子51項目からなる尺度となった。尺度の信頼性は $\alpha=.95$ 、下位尺度の信頼性はそれぞれ $\alpha=.95$ 、 $\alpha=.95$ 、 $\alpha=.92$ 、 $\alpha=.89$ であった。また、成人用共同体感覚尺度と共同体感覚尺度（高坂, 2011）の間には、合計得点において中程度の正の相関($r=.64$, $p<.01$)が、下位尺度得点との間にも中程度の正の相関($r=.45-.62$, $p<.01$)が示された。さらに、成人用共同体感覚尺度と主観的幸福感の間には、中程度の正の相関($r=.64$, $p<.01$)が示され、Rodd(1994)の仮説が支持された。本尺度により、成人における共同体感覚の測定や、介入効果の測定が可能となった。本話題提供では、成人用共同体感覚尺度の紹介および成人の共同体感覚を測定する意義や今後の可能性を提起したい。

5. 臨床における共同体感覚の意義（鈴木義也）

アドラー心理学では共同体感覚が高いほど良いとされる。とすると、カウンセリングの利用者の共同体感覚も高まるほど良いということになる。共同体感覚は個人の抱く所属感や信頼感という認知や感情に加えて、集団への貢献や協力といった行動も含むと考えられる。

しかし、カウンセリング利用者の所属する家族なり会社なりの共同体から心理的分離や自立が課題となるとき、心理的に独立したり距離を置いたりする

ように促すことも少なくない。アドラー心理学の子育てタイプという封建タイプの親などに対する対応がその例である。

共同体感覚の理論が個人の集団への貢献を求めるものであるというのは一面的理解である。集団の中で個人の自由や安全が保証されてこそ共同体感覚が育まれる。個人の主体性や自己決定に対して信頼感を持ち、個人のために貢献と協力をするという集団からの働きかけも共同体感覚の育成に資すると思われる。

個人と集団が相互作用的に展開するone for all, all for oneの共同体感覚は、アドラーが個人心理に留まらずに拡大した集団理論と解することができるが、個人尊重の理論が基盤にあることに変わりはない。心理臨床においては、個人への勇気づけに加え、個人が集団内で共同体感覚を伸ばす支援も課題となるだろう。

6. 教育における共同体感覚の意義（赤坂真二）

1990年代後半から報告されるようになった学級崩壊と呼ばれる「学級がうまく機能しない状況」であるが、様々な解決策が提案されながらも問題を抱える学校が少なくないのが現状である。

河村(2012)は、学級集団を育成するには、リレーションとルールを統合的に確立させていくことだと説明した。ここでいうリレーションとは、教師と子ども、子ども同士など、学級の中のすべてのふれあいのある人間関係のことであり、ルールとは、共同で生活する上でのマナーのことである。Nelsen, J.ら(1997, 会沢訳, 2000)は、学級のルール設定機能と学級の成員間の相互扶助的な機能を合わせもつクラス会議を提唱した。クラス会議は、学級内のルールづくりや集団における必要な行動様式を学ばせ、そして、相互扶助的な活動からふれあいのある関係性、つまり、リレーションを育てると捉えることができる。クラス会議の実施によって、河村がいう学級のリレーションの育成とルールの確立をすることが可能であると考えられる。クラス会議はNelsen, J.らが主張する共同体感覚を育成する方法であるポジティブディシプリンの中心的な実践として位置づけられる。ポジティブディシプリンとは、子どもが学ぶことができる最も重要なライフスキルとされている。

このように共同体感覚の育成は、機能不全に陥った学級の機能を回復させる一つの方向性として期待されるのである。